

国際文化学部 新入生履修案内

新入生のみなさんは、学部の特徴やカリキュラムの仕組みを十分に理解したうえで、履修登録を行ってください。このリーフレットは今後も使用しますので、学生便覧とともに大切に保管してください。

はじめに——大学での学びとは

大学では、自分が学びたいことを自由に学修することができます。しかし、行き当たりばったりで単位を揃えるだけでは、系統的な勉強はできず、学びも散漫になってしまいます。

また、自由であるとはいえ、国際文化学部では最終的にしっかりした研究の主題（卒業論文の主題）を選択しなければなりません。そのためにも、初年度から自覚をもって勉学に携わることが大切です。

まず自分自身に問うて欲しいのが、大学で何を勉強したいのかです。就職のことはひとまず置いて、自分の興味関心がどこにあるのかをはっきりさせましょう。そのうえで自分が学びたいことに関連する科目を履修することによって、関心領域についての知識を深めてください。

1. 国際文化学部の特徴

(1) 3つの系と6つのコース

国際文化学部では、各自の関心に合わせて効果的な学修ができるよう、東洋文化系、西洋文化系、複合文化系の3つの系を設けています。

また、さらに東洋文化系を日本文化コースと中国・アジア文化コース、西洋文化系をアメリカ・太平洋文化コースとヨーロッパ・地中海文化コース、複合文化系を比較文化コースと表象文化コースに細分化し、各コースに4つずつのゼミを設けています。

(2) ゼミナール（演習）中心の学び

国際文化学部は、全国でも珍しく、1年次から4年次までゼミを必修科目としています。

ゼミとは、学生がさまざまな研究テーマについて発表し、議論を深める場であるとともに、また文献講読を中心に、専門的なテキストが読解できるよう学問的な訓練を積む場です。

(3) 所属ゼミ選択までの2つのステップ

■系の選択

みなさんは、基礎演習A・Bでの学びを踏まえて、1年次のおわりに2年次以降所属する系を、東洋文化系、西洋文化系、複合文化系のなかから選択します。系の定員は□人（1学年の人数÷3×1.2）です。そして、所属する系が開講している8つのゼミから、前期・後期でひとつずつ導入演習A・Bを履修します。

なお、希望者が定員を超える場合は、原則的に1年次の成績（GPA）を用いて選抜します。第1志望の系に所属できなかった方は第2・第3志望の系に属することになります。

■コースとゼミの選択

続いて、2年次の秋に、3年次より所属するコースとゼミを選択します。東洋文化系の学生は日本文化コースか中国・アジア文化コース、西洋文化系の学生はアメリカ・太平洋文化コースかヨーロッパ・地中海文化コース、複合文化系の学生は比較文化コースか表象文化コースを選択します。そして、所属コースが開講している4つのゼミから専門演習A・B（3・4年次合同）を決定します。4年次の卒論演習は、3年次ゼミの持ち上がりクラスとなります。

コース選択は、各自の卒業要件（選択必修科目の履修）にかかわります。詳しくは、学生便覧を参照してください。

このように、ゼミ選択を2段階に分けることによって、みなさんは自分の関心を順次絞っていくことができます。すべては最終的に卒業論文の主題を選択することに向けられています。

(4) ゼミと外国語の深いかわり

国際文化学部では、特定の地域文化、時代文化、学問を深く研究するために、当該対象に深くかかわる言語の履修（文法的な知識や読解力の習得）が重要視されます。

現代社会では会話能力の向上が外国語学習の動機・指標として語られる傾向があります。そして、みなさんのなかには会話能力の向上を、外国語を学ぶ大きな動機にしているひともいるでしょう。もちろん話す力は大切ですが、大学ではまず、文献を読解する語学力の習得が求められることに注意してください。

ゼミを中心とした4年間の勉学のデザイン

1年生：基礎演習A・Bと文化コース基礎論a～fを履修。

➤基礎演習A・Bを通して大学での学習の基礎的な事柄を学び、文化コース基礎論a～fで将来研究したい学問を探します。

2年生：3つの系（東洋文化系、西洋文化系、複合文化系）のいずれかに所属し、それぞれの系の導入演習A・Bを履修。

➤導入演習A・Bでは、3年次以降、本格的にはじまる専門的な研究のための、準備訓練を行います。また同時に、2年次のうちに自分の関心以外の知見を深める機会でもあります。

3年生：（所属系のなかから）所属コースを決定したうえで、特定の教員の専門演習A・B（3・4年次合同ゼミ）を履修。

➤卒業論文執筆に向けて、自分の専門研究を深める時期です。

4年生：3年次と同じ合同ゼミ（名称は卒論演習A・Bとなる）を履修し、卒業論文を執筆。

➤大げさに言えば、小学校以来の勉強の集大成が卒業論文です。長年の勉学の成果をかたちにする大事な時間となります。

2. 1 年次の履修

(1) 基礎演習 A・B (必修科目)

国際文化学部の教員全員が、前期または後期の基礎演習 A・B を担当しています。新入生のみなさんは、基礎演習 A を前期担当の 12 人の先生から、基礎演習 B を後期担当の 12 人の先生からひとつずつ選択することができます。

シラバスや 5～7 頁のゼミナール紹介の内容を参照し、慎重に演習を選んでください。前期と後期を異なる教員のゼミで学び、自分の興味関心をはっきりさせることが、大学での勉強を充実させるための鍵になります。

(2) 文化コース基礎論 a～f (選択必修科目)

3 年次以降の所属ゼミ選択のために用意されているのが、選択必修科目の文化コース基礎論 a～f です。国際文化学部の 6 つのコース（日本文化、中国・アジア文化、アメリカ・太平洋文化、ヨーロッパ・地中海文化、比較文化、表象文化）それぞれに所属する教員（3～5 人）が、コースの特徴、自分の専門を紹介するオムニバス科目（複数の教員がリレー形式で担当する科目）です。

新入生のみなさんは、自らの興味関心にしたがって、4 科目を履修しなければなりません。また、そのなかで、研究したい地域、時代、学問分野（どの先生の演習が自分の興味関心に近いのか）を探してください。

(3) 共通科目の外国語 (選択必修科目)

8 頁のゼミと外国語の相関図を参照しながら、何が勉強したいのかを見据えて、第 1 外国語と第 2 外国語を決定してください。

履修する外国語によって、選択できるゼミが限られてきますので、細心の注意をはらってください。

たとえば、第 1 外国語に英語、第 2 外国語に中国語を選択すれば、おのずと、それ以外の外国語を必須にしているゼミを選ぶことはできなくなります。

もちろん、自分が選択した外国語とゼミの必須言語が異なる場合は、2 年次以降にあらためて外国語を履修し直すことが可能です。ただその分、多大な努力が必要になることは言うまでもありません。

3. ゼミ選びの考え方

(1) 自分が何を研究したいのかを中心にして考える

ゼミ選びの指針としてみなさんに参考にしてほしいのが、ゼミは自分の志望する専門で選ぶという考え方です。法学部や経済学部などの場合は、自分の学びたい専門が、入学時にすでに選択されています。これに対して国際文化学部では、その選択に猶予があり、その分みなさんには自由が与えられています。つまり、みなさんはそれだけ、自らの決定について自分で考えることを求められているということです。先輩や友人に相談することも大事です。しかし、友人と一緒にいたいからなどの理由でゼミを選ぶことは、他人に自分の決定をゆだねているという意味で、自由を自ら放棄することになるのを忘れないでください。

(2) ゼミ選びの例

■歴史学を勉強したい

歴史に関心があるという方は、いつ、どここの歴史を学ぶのかを決めなければなりません。まず東洋か西洋か、そして東洋なら日本か、日本以外のアジア諸国か、西洋ならどの地域の歴史を学ぶのか、そのようにして自分の関心を絞って行ってください。国際文化学部には広い意味で歴史を専門とする先生方が各系にいらっしゃいますから、5～7頁のゼミナール紹介を読み、自分の関心に近い先生を探し、その先生が書かれた論文や書物を読んだうえで相談してみてください。

■美術史を勉強したい

美術に関心がある方も、歴史学におとらずいらっしゃるでしょう。美術についても、まずはどの地域の美術、どの時代の美術に関心があるのかを自分にたずねてみてください。広い意味で美術を専門とする先生、またそのような関心に応えることができる先生方が、各系にいらっしゃいます。5～7頁のゼミナール紹介を読み、自分の関心に近い先生を探し、その先生が書かれた論文や書物を読んだうえで相談してみてください。

■文化人類学を勉強したい

文化人類学とは、さまざまな地域の生活のありかたを研究する学問です。国際文化学部には文化人類学を専門とする先生が4人いらっしゃいますが、それぞれ地域が異なります。ゼミナール紹介を参照し、どの先生が自分の関心にもっとも近いかを探してみてください。

このように国際文化学部では、系やコースを越えて、専門を同じくする先生方がいらっしゃいます。先生の専門に注意することも、ゼミを適切に選ぶために必要なことです。

■自分が学びたいことの専門の先生がない場合

先生の専門に注意してくださいと述べました。みなさんが学ぶ人文科学は伝統的に哲学(思想)、史学(歴史)、文学(芸術)という大きな3つの専門分野に分かれます。自分の関心のある分野が、この3つのどれに当てはまるかを考えることも、自分の興味関心を探る手立てのひとつです。そうすると、自分の関心に近いことを研究されている先生が必ず見つかるはずで、その先生に相談してみましょう。

もう一つの方法は自分が選択した外国語にしたがって、その言語を必須にしている先生に相談することです。

■まだ何を勉強したいのかわからない場合

何を勉強したいのかわからず、漠然とした気持ちで大学に入学した方が、ひょっとしたらいらっしゃるかもしれません。そのときは、自分を振り返って、かつて何に関心があったのか、いま何に興味を惹かれているのかを、図書館を活用するなどして、考えてみましょう。

また、何を勉強したいのかわからない場合、第2外国語の選択にもっとも迷います。もしかすると、それが逆により機会になるかもしれません。各種外国語が話されている地域の文化や歴史を調べると、自分にはなじみがないと思っていた外国語に親しみがわくかもしれません。ぜひ新しい外国語に挑戦してください。

日本文化コース

西村 将洋 (にしむら・まさひろ) ゼミナール

キーワードは近現代日本の「横断性」です。ここでの横断性とは、日本と諸外国との国際関係や、複数の学術領域のつながり、の意味です。卒論は文学、歴史、美術などの古典的な領域から、現代的なファッション、ツーリズム、マンガ、アニメなどまで可能

です。ゼミは発表と討論が中心で、本気で学びたい人を歓迎します。語学の限定はありません。担当の西村は近現代日本(明治期から現在まで)の文学・文化と異文化交流史が専門です。

尹 芝恵 (ゆん・じへ) ゼミナール

専門は日韓文化交流論、日本美術史。具体的には浮世絵に描かれた外国人である朝鮮通信使を取り上げ、日韓の文化交流を中心とした文化比較をすることです。演習では韓国語資料も読むので韓国語科目を履修してください。前半は教員の説明、後

半は学生が順番に発表し、全員でディスカッションを行います。日本と韓国(朝鮮半島)の文化を何かどのように違うのか、その違いはどこに由来するのか、歴史をさかのぼりながら絵画を基に考察していきましょう。

宮崎 克則 (みやざき・かつのり) ゼミナール

【ジャンル】:日本史

【ゼミテーマ】:江戸時代の文化・社会を「古文書」(コモンジョと読む)から考える

【ゼミ概要】:1600~1800年代に日本にやってきたヨーロッパ人、とくにケンペル・ツンベルク・シーボルトを主体に、彼らが

ヨーロッパで出版した日本に関する書物(日本語訳)をテキストとして、その中に書かれている江戸時代の風俗・社会・文化・産業・政治についての記述を日本に残る記録と比較しながら検討します。

伊藤 慎二 (いとう・しんじ) ゼミナール

かくれキリシタンの墓地、沖縄最古の土器文化、特攻失敗隊員の隔離施設、元寇防塁、戦時中の松脂採取、宗像沖ノ島祭祀遺跡、ナチスの絶滅収容所。共通項はなんでしょうか? 実は、私がここ最近取り組んだ《考古学》の研究対象です。考古学というと、大昔のことばかりという印象があります。しかし本当は、力

タチに残る人類の痕跡さえあれば、どんな世界の歴史や異文化とも「対話」できる学問なのです。発表やレポートのために現地や実物を調べることも多く必要ですが、ぜひ一緒に考古学を研究しましょう!

中国・アジア文化コース

新谷 秀明 (しんたに・ひであき) ゼミナール

中国語および20世紀の中国文学を専門としています。そのほか植民地時代の(日本語で書かれた)台湾文学などにも興味があり、研究の触手を伸ばしているところです。私のゼミを希望する方は中国語を必ず履修してください。2年次以降の演習で

は中国語文献の読解を中心にしながら、多文化的視点を持ち、多様な素材にアプローチしていきます。卒論のテーマも、中国語、中国文化との関連があることを前提に、幅広い領域にわたっています。

韓 景旭 (かん・けいきょく) ゼミナール

専門 東アジア文化論

日本・中国・韓国の文化を様々な角度から比較し、相似点と相異点を明らかにし、異文化との接し方や自文化を見直す知性を身につけることを目標としています。

これまでの研究テーマとして、たとえば「日・韓の食文化」「日・

中の喫茶文化」「中国の少数民族文化」「漢字文化圏」「東アジアの映画」「チャンドレスの歴史」「東アジアの宗教」などがあります。なお本ゼミでは、中国語もしくは韓国語の履修(1~2年次)を条件としています。

金縄 初美 (かねなわ・はつみ) ゼミナール

専門は中国民族学です。中国には56の民族が居住しています。各民族の文化が長い歴史の中で育まれ、相互に影響を与えたことにより、中国文化の多様性が生み出されました。本ゼミでは、中国語圏における民族文化や現代社会の諸問題を学ぶことを通じて、多角的視野をもって文化を理解する視点を養うことを目指します。ゼミでの学びは、語学力の向上と、発表を通じて考

えを深めていくことに重きを置いています。卒業論文のテーマは中国文化圏における民族文化、飲食文化、服飾文化、ジェンダーなど、中国文化に関する内容から自由に選ぶことができます。外国語に関しては、中国語の文献を読むため、中国語の履修が必須です。

梅村 卓 (うめむら・すぐる) ゼミナール

専門は中国の近現代史、メディア史、満洲・東北史です。梅村ゼミでは歴史学の視点から、中国という地域のもつ独特の文化や哲学、思考様式について理解することを目的としています。2年生のゼミからは中国語の文献も講読するため、中国語が必須と

なります。メディア史、ジェンダー史、教育史、政治・外交史、地域史など、様々な文献を取り上げるなかでみなさんが何に関心があります。将来的に卒論でどのようなテーマを選択するのか探っていきます。ゼミで楽しく学ばなかで一緒に準備していきましょう。

西洋文化系

アメリカ・太平洋文化コース

塩野 和夫 (しおの・かずお) ゼミナール

学問的な専門は日米キリスト教文化史ですが、絵本『うれしいやないか、シオノ!!』は塩野の生き方を描いています。塩野ゼミは移民の国アメリカのしなやかな共存社会——民族・宗教——を背景とした文化を扱っています。英語文献を読みますが、外

国語の希望はありません。最近の塩野ゼミの卒論に「現代アメリカンヒーローの役割」「日系アメリカ人のアイデンティティの形成」があります。いろいろな人がいて一緒に作り上げていくのが塩野ゼミの方針です。

宮平 望 (みやひら・のぞむ) ゼミナール

この演習はアメリカの文化や思想の研究です。基本的に卒論につながるような演習にしますが、二年生のゼミではアメリカ以外の文化圏の研究発表も勧めます。歴史的にアメリカには諸外国からの種々の文化・思想が流入しているからです。三年生のゼ

ミからは余裕をもって徐々に卒論に取り組みます。ゼミでは先輩ゼミ生との交流を大切に、度々「先輩登場」があります。こうした機会はゼミ生の卒論研究や将来の職業計画にも役立つと思います。

朝立 康太郎 (あさだち・こうたろう) ゼミナール

専門：歴史学(19世紀アメリカ政治文化史)

ゼミで使用する外国語：英語

演習の内容：近現代アメリカ史全般(政治・経済・社会・文化)

演習の運営について：一つの問題について参加者全員が考

え、議論することを重視します。

学生への一言：経験した時間であるはずなのに、実のところ人は過去について何も分かりません。だからこそ歴史という学問が存在します。歴史学を通じて考える力を鍛えましょう。

大原関 一浩 (おおはらげき・かずひろ) ゼミナール

専門はアメリカ社会史(移民史・女性史)です。アメリカ・ハワイに移住した日本人の歴史について調べながら、アメリカ社会の特徴について考えてきました。1年生の演習では、日米の文化習慣の違いについて、2年生の演習では、ジェンダー分析の方

法、アメリカの社会問題(移民・人種・ジェンダー・LGBTなど)について学びます。英語で書かれた文章を読むことに興味のある方、アメリカに住む人や社会問題に関心のある方、歓迎します。

ヨーロッパ・地中海文化コース

山田 順(やまだ・じゅん)ゼミナール

この演習では、イタリアを中心とした地中海世界における古代から中世の考古学・美術を専門に学びます。この演習の履修は、本学のイタリア語初級・中級・上級クラスを必ず履修する者に限られます。この演習で執筆する卒業論文は、たとえば、考古学遺跡やそこから出土した画像資料(壁画・彫刻・工芸品)、ある

いは中世キリスト教の教会建築や壁画装飾などをテーマとしたものが考えられます。語学・研究テーマともに、人がやらないものに興味を持ち、それを掘り下げながら学ぶ強い熱意と執念を持った学生に履修してほしいと願っています。

二藤 拓人(にとう・たくと) ゼミナール

私の専門は近現代のドイツ語圏の文学・思想で、特に18世紀ドイツ近代の文芸をメディア美学や文化史の観点から研究しています。演習では、古典文学作品、あるいは西洋文化・思想史に関わる専門書を使い、輪読しながら、資料の調べ方、テキストの

批判的かつ多角的な読み方を体得します。大事な箇所は適宜原文も使用する予定ですので、ドイツ語履修者としての参加が望ましいです。広くドイツに関係する芸術・文学、文化事象であれば、卒論の研究テーマは自由に設定可能です。

西脇 純(にしわき・じゅん)ゼミナール

専門はグレゴリオ聖歌の霊性です。西洋音楽の源流といわれるグレゴリオ聖歌をキリスト教神学の立場から研究しています。卒業論文では宗教音楽(時代は問いません)の精神性に関わるテーマを選び執筆していただきます。ゼミはドイツ語文献を読

みながらディスカッションを重ねるスタイルをとります。このためドイツ語履修が必須条件となります。音楽を糸口としてヨーロッパ文化の深層へと分け入ってゆく道にともに一歩踏み出しましょう。

押尾 高志(おしお・たかし)ゼミナール

専門は歴史学(近世西地中海地域)です。特にイスラーム・キリスト教間の改宗者の歴史について研究しています。演習では、西地中海地域の歴史や文化、宗教、言語を取り扱った研究書の講読や議論を通じて、この地域について多角的に学び、皆さんと一緒に様々なテーマについて考えていきたいと思ひます。

卒論のテーマは西地中海地域(もちろん北アフリカを含みます)の歴史や文化に関わるものを設定できますが、英語以外にも自分が研究したい地域の主要言語を学んでおくことを勧めます。

複合文化系

比較文化コース

片山 隆裕 (かたやま・たかひろ) ゼミナール

片山ゼミが取り組むのは「文化人類学」と「東南アジア研究」という分野です。フィールドワークと比較研究を方法論的特徴として20世紀初頭前後から発展してきた文化人類学はグローバル化の中で新たな展開を迎えています。本ゼミでは、文化人

類学の学説史や理論を概観するとともに、タイを中心とする東南アジア大陸部をフィールドとして、ジェンダー、エスニシティ、ツーリズム、開発、エイズ問題、戦争、グローカリゼーションなど現代の様々なテーマについて考えます。

今井 尚生 (いまい・なおき) ゼミナール

このゼミでは、近現代の文化(科学や宗教を含む)とそこに生きる人間(伝統的な人間に対する見方と科学的な人間理解の関係の問題など)に関する学びを通して、自分がこれまで無意識に身につけてきた考え方の枠組みを見つめ直し、より深いもの

見方を探求していきます。比較という観点からは主にヨーロッパと日本の文化に焦点を当てます。また異文化を理解するための言語としては、英語の習熟に努めて下さい。

藤田 公二郎 (ふじた・こうじろう) ゼミナール

専門は現代哲学です。ゼミでは「現代世界を哲学する」をテーマに掲げています。グローバル化時代における世界各地の文化状況を比較検討することで、それらに共通して見られるグローバル化の諸問題を探っていきます。そしてまた、そうした諸問題

を批判的に分析するために、現代哲学の重要著作を輪読していきます。英語圏だけでなく仏語圏の思想的伝統もよく参照するので、仏語の履修を推奨しています。卒業論文は、現代世界が現代哲学に関するテーマの一つを選んで執筆することになります。

伊東 未来 (いとう・みく) ゼミナール

主に西アフリカをフィールドとする文化・社会人類学者です。文化や社会はそれぞれに多様で個別的で、一方で、いかなる時代・地域の人びとも社会を形成し文化を醸成してきたという意味で、人類に普遍でもあります。演習では、アフリカをめぐる

諸事象を、個別と普遍双方の視点から考えます。問いを設定し、調べ、問い直し、調べ、書き、調べ…という苦しく楽しい作業を繰り返します。「アフリカを知る」のではなく、「アフリカから学び」ましょう。

ミハエラ・マンケ先生

日本学・ドイツ文学と平和学が専門です。演習は受け持ちませんが、比較文化コースのオムニバス科目「文化コース基礎論」と選択必修科目「比較言語文化論A・B」(翻訳学・比較文学)、およ

び初級・中級・上級ドイツ語を担当します。新入生歓迎会で配布される教員紹介や国際文化学部のホームページも参照してください。

表象文化コース

松原 知生 (まつばら・ともお) ゼミナール

中・近世の西洋美術史が専門で、ルネサンス期イタリア、特にシエナで制作された宗教画とその歴史的背景について研究しています。ゼミでは作品分析と論文執筆の方法について実践的に学びます。3年次以降のゼミでは、イタリア語が既習であるこ

とを条件としますが、卒論ではそれ以外の地域の造形美術や表象文化をテーマとすることも可能です。シエナは中世の雰囲気の色濃く残す美しい街です。シエナ外国人大学への語学研修や派遣留学を通じて、ぜひその空気に触れて下さい。

栗原 詩子 (くりはら・うたこ) ゼミナール

音楽や映像のような時間的な表象を扱っています。基礎演習では、まず学期の前半で、短い映像(MVやCM)の見どころの紹介、その後、学期の後半で、表象領域の学術論文を読んで、その研究成果の紹介を、それぞれ1人1本ずつこなします。これら

は、頭の中にあることを人前で提示する力をつけるための2種類の課題です。語学面では、表象領域の概念を深く学ぶために、フランス語(できればドイツ語も)の習得を勧めます。

柳沢 史明 (やなぎさわ・ふみあき) ゼミナール

現代フランス美術史や思想史、フランス語圏アフリカの造形物をめぐる歴史や表象を研究してきました。ゼミではフランス語のテキストの輪読やそれにもとづく個別発表を軸に、異文化表象や造形分析理論について一緒に学んでいきたいと思いま

す。近現代の西洋美術だけでなくアフリカやアジアなど様々な地域の造形にも関心を広げ、伝統的な美術史と新たな表象文化研究の交点をともに探っていければと考えています。

柿木 伸之 (かきぎ・のぶゆき) ゼミナール

ドイツ語圏を中心に近現代の哲学と美学を研究しています。現代世界の問題と芸術の展開を見すえながら、とくに言葉の可能性を追求したいと考えています。3年次からの演習では、思想的な内容の文献と一緒に講読しながら、哲学や美学を探究した

り、芸術や文化現象を理論的に検討したりする研究に各自で取り組んで、卒業論文に結びつけます。そのためにドイツ語を学修しておくことをおすすめします。2年次までの演習では、専門的な研究の前提となる技法と基礎知識を身につけます。

ゼミ外国語相関図

